藤本菓子店旧蔵の菓子木型について

Wooden Sweet Mold in the Collection of Fujimoto Confectionery

西川　萌*

Moe NISHIKAWA*

キーワード：近代、北海道松前郡松前町、菓子木型

１．はじめに

菓子木型とは、落雁、生菓子や餅を作る際に使用する、和菓子作りに欠かせない製菓道具である。木型を使用した菓子の原型は、平安時代には既に記録が見られ、江戸時代中期には型を使用した落雁が作られていた（虎屋文庫 1996）。松前町でも年中行事や冠婚葬祭の際に木型を使用した菓子は欠かせなかったものの、近年は和菓子離れに伴い需要が落ち込んでいる。

松前町教育委員会では、平成 10 年頃、松前町在住の藤本正浩氏より菓子木型の寄贈を受けた。本資料は、松前町江良地区でかつて営業していた藤本菓子店で使用されていたものであり、本稿では、全 134 点を紹介する。

２．松前町と菓子文化

北海道の最南端に位置する松前町は、松前藩が置かれた北海道唯一の城下町である。北前船交易や近江商人の進出は、物資だけではなく、多様な本州の文化を松前にもたらした。

松前藩において菓子文化が発生したのはいつのことだろうか。文化文政頃、松前奉行所勤務の役人によって記されたと考えられている歳時記『松前歳時記草稿』には、干菓子を正月飾り（蓬莱飾り）に使用するほか、年始の挨拶や精霊祭の供物とする等、3 件の記述がみられた（北海道 1969）。

行事等に用いる菓子は各家庭で作ることが多く、各家庭にはかなりの菓子道具・技術があった様子である（大石 1977）。現在はべこもち等を自前で作る家庭は少なくなっているが、代々伝わる木型等の菓子道具を持つ家は多い。

３．藤本菓子店について

藤本菓子店の位置した松前町江良地区は、町中心部から約 20km 西の日本海沿岸に位置する。慶長年間頃に南部、津軽、秋田地方より訪れた漁業者や漂流者が定住したことが町のはじまりと伝わる（北海道松前郡大島村役場 1952）。近世より江良町村といい、西在城下付の村であった（図 1）。大正 4 年（1915）の北海道二級町村制施行にともない、江良町村、清部村、原口村を大島村と改める。さらに昭和 29 年（1954）の 4 か町合併にともない、松前町字江良となった。現在町政施行から約 70 年、字別の人口は松前町で 1 番多い。

藤本菓子店の初代は明治時代に青森県から松前町に移住した。移住した当初は菓子店ではなかったが、2 代目が函館の菓子店で修業したのち、菓子店を創業したといわれている（櫻井 2014）。菓子店は商店としても営業し、藤本正浩氏の両親が平成初期まで店を営んでいたという。

４．資料紹介

（1）調査方法

木型の縦、横、厚さの長さを計測し、写真撮影を行

*　松前町教育委員会 文化社会教育課 学芸員

った。図柄、持ち手の形状、焼印や墨書を調査し、型の分類を行った。

（2）木型の分類

木型の形状は岡山市デジタルミュージアム図録、深井康子氏による分類を参考にした（岡山市デジタルミュージアム 2011、深井 2005）。

①板型

一枚の板に図柄を彫ったものを板型に分類した。菓子を成形するのに使用するのではなく、主に図柄を付けるために使用する。板型は 5 点確認した。板全面に模様を彫り刻むものや円形に彫るものが見られる。No.5 は唯一裏表の両面に 2 つずつ、計 4 つの彫刻が施されている。

図 2　板型（No.5）

②箱型

箱型の木型は、枠と図柄が彫刻された板で構成され、押し寿司のように板を菓子に押し付け模様を施す。箱型の木型は 2 点確認され、いずれも長辺が 25cm を超える大型のものであった。図柄は蓮花葉と鶴亀であり、需要の多かった慶弔各 1 点を備えていたようだ（No.6,7）。

図 3　箱型（No.6）

③一枚型

厚みの無い菓子を製作する場合に用いられ、下司が省略されている。一枚型に持ち手の付いたものは後述の打出しに分類した。一枚型は 8 点確認した。全長約 45cm となる大型の伸鯛の木型が 2 点確認されたが（No.70,104）、これほど大きな 1 枚の菓子を欠け無く製作するにはかなりの練度が必要であると推察する。

図 4　一枚型（No.70）

④二枚型

二枚型は図柄が彫られた面と、菓子に厚みを持たせる枠である下司の 2 枚で構成されており、中に餡を入れた菓子等を製作することができる。2 枚を正確に合わせるためダボと穴が開いているほか、下司の天地を逆さにしないよう、側面に 2 枚を重ねることで繋がるように溝を刻んでいる場合もある。二枚型は 48 点確認した。

図 5　二枚型（No.11）

⑤打出し

下司が省略され、一枚型に持ち手が付いたものを打出しに分類した。打出しは 70 点確認され、本調査で最多であった。松前町では現在でも盆や正月に鯛、イカ、エビ等を模した菓子が菓子店に並ぶが、これらの菓子では打出しの木型が使用されている。

図６　打出し（No.62）

（３）木型の図柄

本調査では多様な図柄が確認され、それらは岡山市デジタルミュージアム図録を参考に大別した（岡山市デジタルミュージアム 2011、図 7）。

最も多く確認されたのが「花」35 点、次点で「野菜・果物」18 点である。これらは菓子に季節を添えるのに欠かせないモチーフであり、時期に合わせて適切な型を選んだため、季節の分だけ数量が多くなるのは言うまでもない。

蓮等が分類される「不祝儀」は 12 点、対して慶事に用いる「松と竹」「鯛」「鶴と亀」「海老」「日の出など」合計 55 点で、弔事と比較すると数が多い。特に「鯛」は同じ図柄であるにも関わらず様々な大きさや向きがある。鯛の菓子は結婚式の引き出物とされたほか、漁師町松前町では大量祈願の供物としても用いられ、多くの需要があり、様々な大きさや形に対応していたのだろう。

「節供」には 5 点が分類された。うち 3 点が鯉の図柄であり、5 月 5 日の端午の節供に男児のお祝いとして用いられたのだろう。

「地方色」では魚介類を主とし、魚の切身、帆立貝、スルメイカ等の計 5 点を確認した。魚類や魚の切身の木型は東北地方で製作される（岡山市デジタルミュージアム 2011）。前述のとおりイカの菓子は現在でも用いられ、今回の図柄は耳が小さいスルメイカであった（No.116）。松前では 6 月から 12 月に水揚げされ、昆布とともに結婚式や正月には欠かせない魚介類である。

「地方色」で 2 点確認された「菊一」にも触れておきたい（No.113,123）。半菊に一文字を重ねた意匠「菊一」は山形県鶴岡市で伝承される雛菓子に欠かせないモチーフで、鶴岡独自のものであり、鶴岡雛菓子以外には、まず見ることはできないという（鶴岡市企画部食文化創造都市推進課 2023）。更に、この鯛や縁起物をかたどった菓子を盛り合わせた「鶴岡雛菓子」は、松前町を含む北海道に見られる正月の文化「口取り」に類似している。地理的に離れた 2 都市に共通するのが「北前船」である。松前と鶴岡は、北海道と大阪の間を商品を売買しながら航海した北前船の寄港地として栄えた。日本海を航行した北前船が、物資だけではなく菓子文化も運び、松前に伝えたのではないだろうか。

（４）木型の持ち手

吉田隆一氏によれば、東北で製作された菓子木型の持ち手は、基本的に断面が四角形、長方形のものが多いという（吉田 2012）。後段で述べるように今回製作地が確認された木型のほとんどが青森市と函館市で製作されたものであるが、持ち手の付いた 72 点のうち、71 点が東北地方の特徴であるとされる四角形の持ち手を有していた。1 点丸型の持ち手が確認されたが、そちらについては（７）で触れることとしたい。

（５）木型にみられた焼印

計 134 点のうち、77 点の木型に焼印が確認された。焼印は木型の所有者ではなく製造者を表す場合がほとんどで、最も多かったのが「元木商店」のもので 30 点、次に「函館まきの」で 21 点、「一∧十（屋号）」で 20 点である。「元木商店」は 4 種の焼印が確認されているが、それぞれの使用時期等は不明である。現在、木型の製作は行っていないが、卸問屋「株式会社元木商店」として営業を続けており、木型製作に使用した彫刻刀や型紙が残っているという。「函館まきの」「一∧十（屋号）」については詳細が不明であり、今後も調査を継続したい。

（６）木型にみられた墨書

51 点の木型に墨書が確認された。多くの場合は図柄の名前、大きさ等が側面に記されており、積み上げて

保管した木型から、必要に合わせたものを素早く取り出せるようになっているのだろう。資料のうち年代が明記されているのは 1 点のみで、「昭和九年八月■日之求」と記されている（No.114）。

（7）特徴的な木型

割れ、ひびが入った木型を修理した痕跡がある資料は、5 点確認された。うち 4 点は割れた木材に鎹を打ち修理し、1 点のみ、木型とは別の小さな木材の両端に釘を打ち、ひび割れた箇所を連結して修理していた。破損した木型も修理することで繰り返し使用していた様子が分かる資料である。

（4）にて持ち手の付いた 72 点のうち、71 点が東北地方の特徴であるとされる四角形の持ち手を有していたと述べたが、丸型の持ち手を有した 1 点が No.109 である（図 8）。まず、菓子木型は、堅いサクラ等の木材を用いることが多く（深井康子 2005）、本資料の木型も殆どが堅い材質である。しかし No.109 の材質は明らかに柔らかく、木材がささくれ立っている。また、細部まで精緻に彫刻されている他資料と比べ、線も大雑把で職人の仕事とは考えにくい。太い持ち手の形状とその材質から、本資料は藁打ちに用いる横槌を転用し、非職人が製作した木型ではないかと考える。

5．おわりに

本稿に先立ち、松前町郷土資料館では令和 5 年 9 月 1 日から 12 月 10 日までミニ企画展「手しごと―松前の菓子木型―」を開催し、約 400 名の方にご来場いただいた。本展示のため、令和 5 年 8 月には、昭和 26 年（1951）創業、松前町字松城で現在も営業する菓子店「中村屋」の取材を実施した。同店は 100 点以上の菓子木型を所蔵しており、廃業した菓子店等から譲られたものも多いという。今後松前町内に現存する木型の調査、さらにはその製作地の調査を進め、松前町の傾向や流通について明らかにしたい。

最後に快く調査、取材にご協力いただいた株式会社中村屋様、株式会社元木商店様、末筆ながら記して厚く御礼申し上げます。

参考・引用文献

荒井美津子ほか 2013「餅菓子文化の伝承 第Ⅱ報―江差・上ノ国・松前の「ベコモチ」―」『北海道文教大学研究紀要 第 37 号』

大石雅二 1977「菓子に関する研究―松前地方の餅を主として―」『北海道開拓記念館調査報告 第 14 号』

岡山市デジタルミュージアム 2011『菓子木型―和のかたち―』岡山市デジタルミュージアム

尾曲香織、舟山直治 2020「厚沢部町における食と儀礼―かだっこ餅を中心として―」『北海道博物館研究紀要 第 5 号』

櫻井美香 2014「小樽における菓子文化の基礎研究 2―菓子木型における地域的比較研究にむけて―」『小樽市総合博物館紀要 第 27 号』

鶴岡市企画部食文化創造都市推進課 2023『つるおか伝統菓子伝承事業「鶴岡雛菓子」調査報告書（R4 年度追加調査）』

徳力彦之助 1975『落雁 増補改訂版』三彩社

刀禰武夫 1977「松前菓子雑話」『松前藩と松前 10』松前町史編纂室

虎屋文庫編 1996『「菓子型の世界」展』虎屋

永井秀夫監修 2003『日本歴史地名大系 1 北海道の地名』平凡社

深井康子 2005「菓子木型の形と歴史に関する基礎的研究」『富山短期大学紀要 第四十巻』

北海道 1969『新北海道史 第七巻 史料一』

北海道松前郡大島村役場 1952『大島村勢要覧』

松前町史編集室編 1988『松前町史 通説編 第一巻下』松前町

吉田隆一 2012「謎の多い菓子、落雁 奥深い菓子型の世界」『蒐める楽しみ 吉田コレクションに見る和菓子の世界』虎屋

表１a．藤本菓子店旧蔵の菓子木型

No.	図柄	大きさ (縦×横㎝)	厚さ (㎝)	型の分類	焼き印	墨書	備考
1	菱、二筋格子	9.1×18.0	2.4	板型			
2	籠目、千筋	9.2×18.2	2.4	板型			
3	蓮葉	10.6×16.9	2.5	板型		蓬莱　¥550	
4	亀甲	12.1×18.0	2.2	板型			
5	（表）唐松、青海波（裏）菖蒲、菊	7.1×18.0	2.1	板型			裏表
6	蓮花葉	20.7×26.7	2.3	箱型	亀		外枠から取り出せず
7	鶴亀	23.6×30.0	2.0	箱型	高畑		外枠から取り出せず
8	蓮花	9.9×16.7	4.8	二枚型	青森市浦町元木商店		側面に溝
9	八重菊	8.9×17.7	4.0	二枚型	青森元木製　亀　波		側面に溝
10	竹	18.0×8.8	3.7	二枚型	青森元木製		
11	竹	18.1×10.6	4.3	二枚型	青森市浦町（屋号）元木商店		側面に溝
12	渦巻	7.9×16.5	4.7	二枚型	青森市浦町元木商店		側面に溝
13	枇杷	8.8×16.6	4.7	二枚型	青森市浦町元木商店		
14	五階の松	10.2×19.9	4.4	二枚型	■		
15	日の出鶴	9.4×17.8	3.7	二枚型	青森市浦町菓子用具一式（屋号）元木商店		側面に溝
16	柿	9.5×14.6	5.1	二枚型	青森市浦町元木商店	松前	
17	鯉	17.7×48.5	5.0	二枚型	青森市浦町元木商店		
18	牡丹	9.1×16.4	3.7	二枚型	函館まきの	ボタン五寸五分台引	
19	竹	9.9×18.2	4.2	二枚型	函館まきの	竹引ヵ	内面に鉛筆跡あり
20	鯉	11.7×31.5	3.4	二枚型	函館まきの	八寸鯉　1,100	
21	鯉	8.6×24.3	3.2	二枚型	函館まきの	六寸コイ　750　850	
22	海老	6.9×18.1	4.2	二枚型	函館まきの	450	
23	葡萄	16.7×9.1	3.6	二枚型	函館まきの	五寸五分■引ブドウ	
24	八重菊	8.8×16.4	3.6	二枚型	函館まきの	五寸五分台引菊　550	
25	丸鯛	9.9×18.3	3.4	二枚型	函館まきの	丸鯛　600	
26	九重菊	7.3×24.1	4.9	二枚型	函館まきの	九重菊　1100	
27	大平	8.9×33.4	3.5	二枚型	函館まきの	オヒラ■■　1150	
28	筍	16.6×8.7	3.9	二枚型	函館まきの	五寸五分台引竹の子	
29	胡瓜、柳橋、雨ヵ	6.8×27.2	4.5	二枚型	函館まきの	900　15	
30	椿	9.7×19.8	4.7	二枚型	一八十　亀		2か所補修
31	蓮花葉	11.5×19.8	4.7	二枚型	一八十　亀		
32	八重菊	10.4×15.3	4.7	二枚型	一八十		1か所補修
33	桜	10.8×14.7	4.0	二枚型	一八十		側面に溝
34	葡萄	10.7×14.6	3.6	二枚型	一八十		1か所補修
35	重ね菊	32.4×8.2	3.8	二枚型	一八十		
36	九重菊	9.1×15.0	5.1	二枚型	合羽ばしアサイ	九重菊	側面に溝
37	竹	18.0×10.1	4.5	二枚型		竹　六寸台引	
38	桃	9.3×14.8	3.0	二枚型			
39	舞鶴	16.6×8.4	3.4	二枚型		1	39-43で組み合わせ可能
40	竹	8.1×16.7	3.4	二枚型		2	39-43で組み合わせ可能
41	三階の松	8.4×16.7	3.1	二枚型		3	39-43で組み合わせ可能
42	梅	16.6×8.4	3.4	二枚型		4	39-43で組み合わせ可能
43	尾亀	8.34×16.7	3.3	二枚型		5	39-43で組み合わせ可能
44	海老	10.2×18.5	5.0	二枚型		エビ　六寸台引　450	
45	三階の松	9.9×18.2	4.3	二枚型		六寸松　600	側面に溝
46	日の出松	9.2×15.2	5.1	二枚型		5.5寸台引松　松　420　（マモ）	
47	蛤	9.9×15.1	5.0	二枚型		5.5寸台引蛤　蛤（マモ）　420	内面に鉛筆跡あり
48	伸鯛	18.2×40.4	3.9	二枚型			縁は釘で留めている
49	丸鯛	17.5×10.2	3.4	二枚型			
50	無し（角型）	6.9×33.0	4.5	二枚型		550	

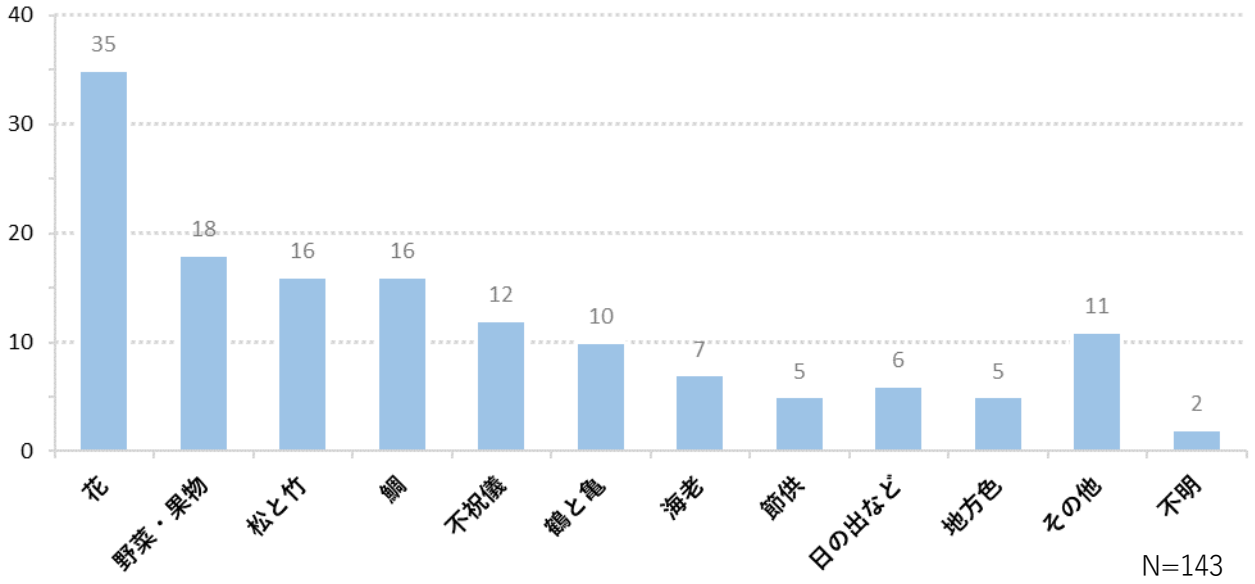
表１b．藤本菓子店旧蔵の菓子木型

No.	図柄	大きさ (縦×横㎝)	厚さ (㎝)	型の分類	焼き印	墨書	備考
51	牡丹	8.7×16.5	(2.1)	二枚型	青森元木製　亀　波	松前　十七匁	面のみ
52	椎茸	9.3×16.0	(2.3)	二枚型		5	面のみ　側面に溝
53	菊	9.1×15.4	(2.3)	二枚型			面のみ　側面に溝
54	不明	10.2×18.1	(1.8)	二枚型			下司のみ
55	不明	10.5×17.9	(2.0)	二枚型			下司のみ
56	鮎	7.4×20.0	2.4	一枚型	青森元木製	第三號　第二號　第一號　松前郡江良町	
57	かぶら	9.3×17.9	2.1	打出し	青森市浦町元木商店		
58	胡瓜	8.4×18.9	1.8	打出し	青森市浦町元木商店		
59	枇杷	9.0×17.9	1.4	打出し	青森市浦町元木商店		
60	松竹梅	9.2×20.6	2.3	打出し	青森市浦町菓子用具一式（屋号）元木商店		
61	すくみ鶴	9.1×19.1	2.3	打出し	青森市浦町元木商店		
62	海老	9.3×19.0	1.9	打出し	青森市浦町元木商店		
63	伸鯛	10.3×21.4	2.1	打出し	青森市浦町元木商店		64と対か
64	伸鯛	10.2×21.5	2.2	打出し	青森市浦町元木商店		63と対か
65	伸鯛	10.0×21.8	2.1	打出し	青森市浦町元木商店	■■■■　渡島國松前郡江良町	
66	蓮実と花葉	11.1×21.2	2.2	打出し	青森市浦町元木商店	福山町	
67	鶴亀	12.4×26.1	2.2	打出し	青森市浦町菓子用具一式（屋号）元木商店		
68	高砂	11.4×23.2	2.6	打出し	青森市浦町菓子用具一式（屋号）元木商店		
69	伸鯛	16.0×32.0	2.5	打出し	青森市浦町元木商店		1か所補修
70	伸鯛	17.9×45.1	3.6	一枚型	青森市浦町元木商店		
71	伸鯛	7.0×21.2	2.2	打出し	青森市浦町菓子用具一式（屋号）元木商店		
72	海老、伸鯛	8.6×22.2	1.7	打出し	青森市浦町元木商店	大日本帝国家庭■■	
73	丸亀、舞鶴	8.4×21.1	2.1	打出し	青森市浦町元木商店		
74	五七の桐	8.8×18.2	2.1	打出し	青森市浦町（屋号）元木商店		
75	牡丹、椿	12.7×26.1	1.6	打出し	青森市浦町元木商店		
76	無し（丸型）	6.7×14.1	2.4	打出し	函館まきの	100	
77	魚の切身	7.8×15.7	2.1	打出し	函館まきの	切身	
78	帆立貝	7.7×15.9	2.3	打出し	函館まきの	ホタテ貝（小）	
79	竹	19.2×9.8	2.4	打出し	函館まきの	六寸台引竹	
80	福梅	9.4×18.9	2.3	打出し	函館まきの	六寸五分台引	
81	海老	7.4×18.1	2.2	打出し	函館まきの	四寸海老	
82	海老	8.1×19.1	2.0	打出し	函館まきの	四寸五分海老	
83	海老	9.5×23.0	2.0	打出し	函館まきの	五寸五分海老	
84	三つ巴	6.5×17.3	2.2	打出し	函館まきの	三ツ巴	
85	日の出梅松に扇	11.8×24.0	2.0	打出し	一八十		
86	八重菊	11.7×23.7	2.0	打出し	一八十		
87	牡丹	11.4×25.6	2.0	打出し	一八十	△	
88	桜に流水	11.5×24.5	2.0	打出し	一八十		
89	蓮花	12.8×21.7	2.2	打出し	一八十		
90	牡丹	12.4×28.8	2.0	打出し	一八十		
91	茗荷	11.4×21.1	2.1	打出し	一八十　向島		
92	蕨	11.6×20.6	2.1	打出し	一八十　向島	ミミ■　■■　代價■■銭	
93	松茸	10.0×25.0	2.3	打出し	一八十　向島	■■■■	
94	蓮花	7.0×31.2	2.9	打出し	一八十		裏面に彫り
95	松竹梅	7.7×37.3	1.6	打出し	一八十		
96	蓮花	6.6×28.5	2.9	打出し	一八十		二枚型のようだが、上型と下型が釘止めされている
97	花	6.6×34.1	1.5	打出し	一八十　八⊠		
98	福梅	8.0×37.4	2.3	打出し	一八十　◇に刀		
99	薔薇	6.7×13.4	3.8	一枚型		270	内面は金属　側面プレート「新案白光商會製製菓器」
100	松	7.9×15.0	2.6	打出し			彫りか「〇〇〇」

表１c．藤本菓子店旧蔵の菓子木型

No.	図柄	大きさ（縦×横㎝）	厚さ（㎝）	型の分類	焼き印	墨書	備考
101	乱菊	9.1×17.9	2.2	打出し	八士		
102	伸鯛	15.5×30.5	2.6	打出し			彫りか「○」1か所補修
103	福梅	4.6×24.1	2.5	一枚型	○に⋈		2か所紐を通す穴あり
104	伸鯛	10.1×45.3	3.5	一枚型			
105	（表）籠目、格子（裏）椿、薔薇	9.0×17.9	2.3	（表）板型、（裏）一枚型			裏表
106	兎	7.1×14.2	2.5	一枚型			
107	亀甲	9.0×14.3	2.1	一枚型			
108	尾亀	10.0×18.2	3.2	一枚型			
109	（表）魚、（裏）花、瓢箪	11.6×21.1	3.9	打出し			裏表　非職人の作か　横槌の転用か
110	（表）丸に寿、（裏）丸に竹	15.0×11.7	3.9	打出し			裏表
111	瓢箪	16.5×5.9	2.3	打出し		120	
112	扇	18.4×5.7	1.9	打出し		ヲ　■	
113	菊一	7.9×16.6	2.2	打出し		（判読不能）	
114	牡丹	10.1×22.7	2.1	打出し		（背面）■■■■■■■店（側面）昭和九年八月■日之求	
115	三階の松	10.3×21.3	2.1	打出し		福山町■■■■■■■■■■	内面に緑色付着
116	スルメイカ	8.6×21.6	2.4	打出し			
117	伸鯛	9.6×22.1	2.1	打出し		五寸鯛	
118	伸鯛	9.9×20.1	2.1	打出し			
119	（表）無し（花型）（裏）蓮花	8.4×31.0	2.0	打出し			裏表
120	祝	8.5×26.2	2.2	打出し			
121	尾亀、舞鶴	10.5×30.5	3.1	打出し			
122	福梅、勇鯛	8.4×20.8	1.9	打出し			1か所補修
123	扇、菊一	8.3×25.1	2.0	打出し			
124	椿、菖蒲	11.1×31.1	1.9	打出し			
125	蓮つぼみ	11.6×26.5	2.5	打出し			
126	花	5.7×26.5	1.9	打出し			内面に緑色、赤色付着
127	花	6.2×23.5	1.8	打出し			内面に緑色付着
128	花に木瓜	6.7×23.5	2.7	打出し			
129	花に福と菊	6.9×36.9	1.6	打出し			
130	（表）無し（丸型）、（裏）花に尾亀、花に花菱、十六葉菊	7.6×25.5	2.2	打出し			内面に赤色付着
131	花	7.5×27.0	1.7	打出し			
132	花	12.7×29.8	2.2	打出し			
133	桃	5.6×31.0	2.0	打出し			
134	竹	10.0×33.0	2.2	打出し			

図１　大正初期の江良下町通り　『北海道松前郡江良町村 写真案内帖』木村喜一郎氏所蔵・松前町史編纂室写し



※1 点につき複数の図柄が施されている場合があるため点数を上回っている

図７　木型の図柄

図８　特徴的な木型（No.109）